

軽い気持ちで始めた結果が・・・

気がつくと、僕は病院のベッドにいました。すると、医者が来て「君の尿を検査したら覚せい剤の反応が出た。覚せい剤を使っているだろう。」と尋ねられました。僕は、この前日の夜、シャブ（覚せい剤）を注射し、間もなく意識が無くなり、病院に運ばれたのでした。

その後、麻薬取締官が来て、この件について事情を聞かれました。尿から覚せい剤の反応が出ているので、言い逃れができるはずがないのに、この時は「覚えていない」と適当なことを言ってしまいました。逮捕される覚悟ができていなかったのだと思います。数日後、再び麻薬取締官が事情を聞きに来ましたが、この時も「覚えていない」と答えてしまいました。この時は、逮捕されてしまうと覚悟し、逃げてでも無駄だと思い、逃げはしませんでした。

しかし、こともあろうに「どうせ逮捕されるなら、最後にもう一回シャブを使おう」と思ってしまったのです。しかも、友人を巻き込んでまで。僕は、昔一緒にシャブを使っていたある友人に「僕はもう直ぐ逮捕されてしまうから、その前に一緒にシャブを使おう」と誘ったのです。その友人は僕の気持ちを汲んでくれて、僕の誘いに乗り、2人でシャブを買いに行き、使ってしまいました。もう逮捕されると分かったときにもシャブを求めてしまうほど、僕はシャブに嵌っていたのだと思います。

そして後日、僕は麻薬取締官に逮捕され、今は中等少年院で反省の日々を過ごしています。

僕が薬物の道へ進む入口となった薬物はバツ（MDMA）です。僕はクラブに頻繁に遊びに行っていました。ある日、そのクラブの関係者から良いものが有ると言われ、貰ったのがバツでした。僕はバツが違法な薬物であることを知りながら、特に躊躇うことも無くそのバツを使ってみました。それ以来、僕はバツを気に入り、クラブに行く度に友人と一緒にバツを使うようになりました。バツは、16歳の頃窃盗事件を起こし、少年鑑別所に入ったのをきっかけに止めたのですが、少年鑑別所を出て間もなく、シャブを使い始めました。地元の先輩と一緒に遊んでいる時に、先輩がシャブを注射していました。その先輩から「シャブを使ったら元気になるぞ」と勧められました。僕はその当時からシャブを使ったら体がボロボロになること、法律で規制されている薬物であることを知っていたものの、使ってみたくてという好奇心の方が勝り、シャブを試してみることにしたのです。使い始めた頃は、先輩に言われたとおり心も体も元気になるような気がしましたが、使い続けていると次第にその効果は薄れ、周りの人を疑うようになり、更には幻覚まで見えるようになってしまいました。僕はこのままでは自分がダメになると思い、何度かシャブを止めようと思ったのですが、自分の意志の弱さから、何か嫌なことがあったとき等、ずるずるとシャブを使い続けていました。病院に運ばれた時も、彼女と喧嘩したからという些細な理由でシャブを使ってしまいま

した。

シャブを使って倒れ、病院に運ばれた時、親や彼女が泣きながら「もうシャブは止めて」と言ってくれました。軽い気持ちで薬物を使い始め、結果薬物に嵌り、ろくに仕事もしなくなっただけの心配をしてくれたのです。この時ようやく、僕は自分自身だけでなく、周りの人間も傷付けていたのだと気付きました。

自分の愚かさから、そんな親や彼女の気持ちを1度は裏切ってしまいましたが、こうして逮捕され目が覚めました。心配してくれた親や彼女の気持ちに応えるためにも、そして自分自身のこれからの人生のためにも、もう2度と薬物には手を出しません。

僕の今の心境は梅雨空の様にどんよりと曇っています。早く夏空のような晴々とした気持ちになれるよう頑張ります。

(18歳 男性)